

## 第 31 回（通算 149 回）全経簿記検定試験 上級 的中と講評

### 商業簿記・会計学

科 目		第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
商業簿記		決算三勘定 的中	連結会計	本支店会計 (在外支店を含む)
会 計 学	第 1 問	正誤問題的中	正誤問題	正誤問題
	第 2 問	税効果会計	ソフトウェア	自己株式及び法定準備金 の取崩
	第 3 問	キャッシュ・フロー 計算書	退職給付会計	債権の分類と貸倒見積高 の算定

#### 講評

##### 〔商業簿記〕

商業簿記は決算整理事項から損益勘定及び閉鎖残高勘定を作成させる問題が出題されました。特徴としては、前回に引き続き、消費税(税抜方式)と税効果会計が出題されました。

各決算整理事項については、棚卸資産については、商品保証引当金の設定が未処理事項との兼ね合いからやや複雑であったものの、その他の事項については、現金、預金、減価償却、外貨建取引、有価証券、社債、退職給付引当金、といった典型的論点が出題され、内容もいたって平易なものでした。また、仕訳問題についても、固定資産の購入と付随費用の処理といった基本的な問題が出題されました。

預金について当座借越を考慮することなど、関連する項目を確実に拾うことがポイントでした。

総括すると、分かるところから確実に解いていけば高得点が狙える問題でした。

##### 〔会計学〕

会計学の第 1 問の正誤問題では一部、細かい論点もありましたが、過去に出題のあった問題が何題も出題されていました。減損会計も出題されましたが、計算の知識があれば解ける問題でした。総じて、10 問中 5 問以上は正解していただきたいところです。

第 2 問は繰延資産、前払費用、繰延税金資産に関する理論問題でした。繰延資産の各項目については確実に正解して欲しい箇所でしたが、記述問題は会計的思考が必要であり、書きにくい問題でした。

第 3 問は財務分析が初めて出題されました。問題文に与えられた各会計処理をした場合の流動比率と負債比率の増減に係る問題が出題されました。ただし、各比率については問題文に指示があったため、それに従えば解ける問題でした。ポイントは利益が増減した場合に自己資本が増減することに気付いたかどうかです。できれば、5 問中 4 問程度は正解していただきたい問題でした。

高得点を狙うことが難しい問題でしたので、部分点を積み上げることが鍵になったと思います。

第 31 回（第 149 回）全経簿記検定試験 上級 的中と講評

工業簿記・原価計算

科 目	第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
工業簿記	工程別総合原価計算	直接原価計算	部門別個別原価計算 + 本社工場会計
原価計算	設備投資意思決定 <b>的中！（問題 1）</b>	戦略的原価計算 + CVP 分析 <b>的中！（問題 2・ABCのみ）</b>	業務執行意思決定 + 事業部制

**講評**

**[工業簿記]**

工業簿記は、等級別総合原価計算と標準原価計算での減損の処理が出題されました。どちらも予想が外れてしまいましたが、基本的な内容ばかりの出題だったので、かなり多くの方が手応えを感じたことだと思います。

問題 1 は、製品 X2 の仕損が工程の 2 箇所が発生しているの、それぞれどの良品に負担させるのかをきちんと判断する必要があります。その他の金額に関しては、問題文に合計金額が記載されているものばかりなので、検算によって正しい解答が導けたのではないのでしょうか。

問題 2 に関しては、基本に忠実な問題だったので確実に得点しておきたい問題といえます。減損を正常分と異常分を正しく分けられたかが、この問題のポイントとなります。

**[原価計算]**

原価計算は、設備投資の意思決定と活動基準原価計算の問題でした。

問題 1 の設備投資の意思決定は第 1 予想で挙げていました。データの量が少なく、それほど複雑な問題ではないので、タックスシールドの影響がきちんと計算できていれば、解答できたと思います。問題 2 の活動基準原価計算も、データの量や計算量が少ないので確実に得点できる問題でした。

今回の工業簿記・原価計算については比較的易しく、基本的な内容が問われている問題だったので、受験生の間で得点にあまり差が出ないと考えられます。そのため、いかに慎重に問題に臨んだかが合否の分かれ目であり、採点がシビアになる可能性も考えられます。